

18世紀、後期バロック音楽を代表するドイツ人作曲家ゲオルク・フィリップ・テレマン。
 バッハやヘンデルへと続くバロック音楽を、延原武春率いるテレマン協会メンバーが演奏。
 場所は、歴史的な重要建築物に指定された中崎公会堂。
 明石の歴史と宮廷音楽の伝統が融合し、新たな反響が起きる当公演。
 当日はささやかながらお口汚しを準備いたします。
 どうぞ、肩ひじ張らずお気軽に足をお運び下さいませ。

オーボエ: 延原 武春 (のぶはら・たけはる)

18世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963年にテレマン・アンサンブル(現・テレマン室内オーケストラ)を創設。彼らを率いて「大阪文化祭賞」をはじめ「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第17回サントリー音楽賞」(同賞は現在もテレマンと東京交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)等の数々の賞を受賞。

延原を語る上で特筆すべきは「第九」。1982年、初演当時の編成とベートーヴェン自身の指定したテンポに基づいて演奏。この新鮮な解釈は世界初の試みであり、J.E. ガーディナーやC.ホグウッドらがその録音を参考にするため自国に持ち帰っている。2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲および合唱幻想曲、荘厳ミサ曲の計11曲を、クラシカル楽器を使用して指揮するという連続公演を行った。この公演によってドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。



リコーダー: 北山 隆 (きたやま・たかし)

関西でいち早くリコーダー演奏を手がけ、大阪音楽大学フルート専攻を卒業後プロの演奏家としてデビュー。大阪にてリサイタルを行い、その成果により大阪文化祭賞、音楽クリティッククラブ賞を受賞するなどこの分野を確立した。

1974年、大阪国際フェスティバル協会の海外派遣文化交流員として渡欧、また現在まで4度テレマン室内管弦楽団のドイツ招聘演奏旅行にソリストとして赴き、リコーダーの演奏に対して絶大な評価を得る。また学校教育音楽の分野でも全国的に活動する。2004年からスーパーリコーダーカルテットを組織し、全国的に衝撃を与えた。大阪音楽大学名誉教授。



ヴァイオリン: 浅井 咲乃 (あさい・さきの)

テレマン室内オーケストラのソロコンサートマスター。2010年、日本テレマン協会第195回定期演奏会(東京文化会館)にてヴィヴァルディ「四季」全曲を好演し「いま、もっとも聞きたい『四季』と言ってよい」(モーストリッククラシック2011年2月号)という評価を得る。2011年には延原武春指揮によるコンセプト・オーケストラ「Orchestra Japan 2011」のコンサートミストレスを務め、マーラー交響曲第4番ほかを好演。2012年の日本テレマン協会第205回定期演奏会(東京文化会館)では「浅井咲乃が熱意にあふれたろさびさびで(ヴィヴァルディ作曲の)「ムガール大帝」の華々しいソロを弾きこなすと、大きな拍手と温かな空気が会場をつんだ」(共同通信)と報道された。2014年6月にはクライスラーやロマ音楽を収録したセカンドアルバムをリリースし話題となる。



チェロ: 曾田 健 (そた・けん)

テレマン室内オーケストラのステージマネージャー及び首席チェロ奏者。京都市立芸術大学在学中の2002年より日本テレマン協会の演奏活動に参加。翌年ライブツピ化をはじめとするドイツへの演奏旅行にも参加しソリストも務める。以来指揮者・延原武春の音楽的な補佐、およびステージのトータルなコーディネイトをこなす。

延原の補佐としてその才が大いに発揮されたのは、2008年のベートーヴェン交響曲全曲公演。この成功は補佐と助言があつてこそのもので延原自身も語っている。ちなみにこの公演がきっかけとなり、延原はドイツ連邦共和国より功労勲章を受章することになった。

チェンバロ: 高田 泰浩 (たかた・たい)

2002年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。

チェンバロのソロ活動としては2011年5月に「バッハ・アルヒーフ」(ライブツピ化)の主催する定期演奏会に出演(日本人鍵盤奏者としては初めての招聘)し好演。10月には同公演と同じ曲目を収録したCDをライブノーツよりリリース。現在はバロックヴァイオリンのU.ブンディースとデュオを結成しドイツでも演奏活動を展開中。フォルテピアノとチェンバロをC.シヨルンスハイムに師事。また2012年よりA.シュタイアーに、2013年よりO.ボーモンに師事。2013年4月にはU.ブンディースとのデュオのCDをリリース。平成23年度坂井時忠音楽賞受賞。2014年には中之島中央公会堂(大阪市)にて、ベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲公演(全3夜)を公演。

